

発行日：平成29年5月10日

環境活動レポート

平成28年度（H28.4.1～H29.3.31）



目 次

環境方針	2P
1. 会社概要	3P、4P
2. 環境への負荷チェック	5P、6P
3. 環境負荷削減目標	7P
4. 具体的な環境活動計画の内容と取り組み状況	8P、9P
5. 環境負荷削減目標と実績の評価	10P、11P、12P
6. 次年度の取組み内容	12P、13P
7. 代表者による全体の評価	13P
8. 環境関連教育	13P
9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	14P

環 境 方 針

永田精機(株)は、電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器の開発、製造及び受託加工、商品の販売、不動産の賃貸管理を通じ、環境負荷削減に配慮した事業活動を展開していく。

1. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動全領域で、省資源、省エネルギーに配慮した活動を行う

製品生産量 (t) 当りのCO₂ 排出量の削減

製品生産量 (t) 当りの水資源使用量の削減

製品生産量 (t) 当りの紙資源 (コピー用紙) 使用量の削減

製品生産量 (t) 当りの一般・産業廃棄物排出量の削減

化学物質の適正管理

グリーン購入 (事務用品) の推進

2. 環境関連法規の遵守

該当する環境関連の法規制や条例、当社が同意するその他の要求事項を遵守する

3. 継続的環境負荷削減の実施

環境マネジメントシステムを構築し、継続的に環境負荷削減に取り組む

4. 環境啓発活動の推進

全従業員に対して環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行う

5. 環境関連情報の公表

環境活動レポートを当社HPで公表する

平成27年7月1日改訂

永田精機株式会社

代表取締役 永田裕悟

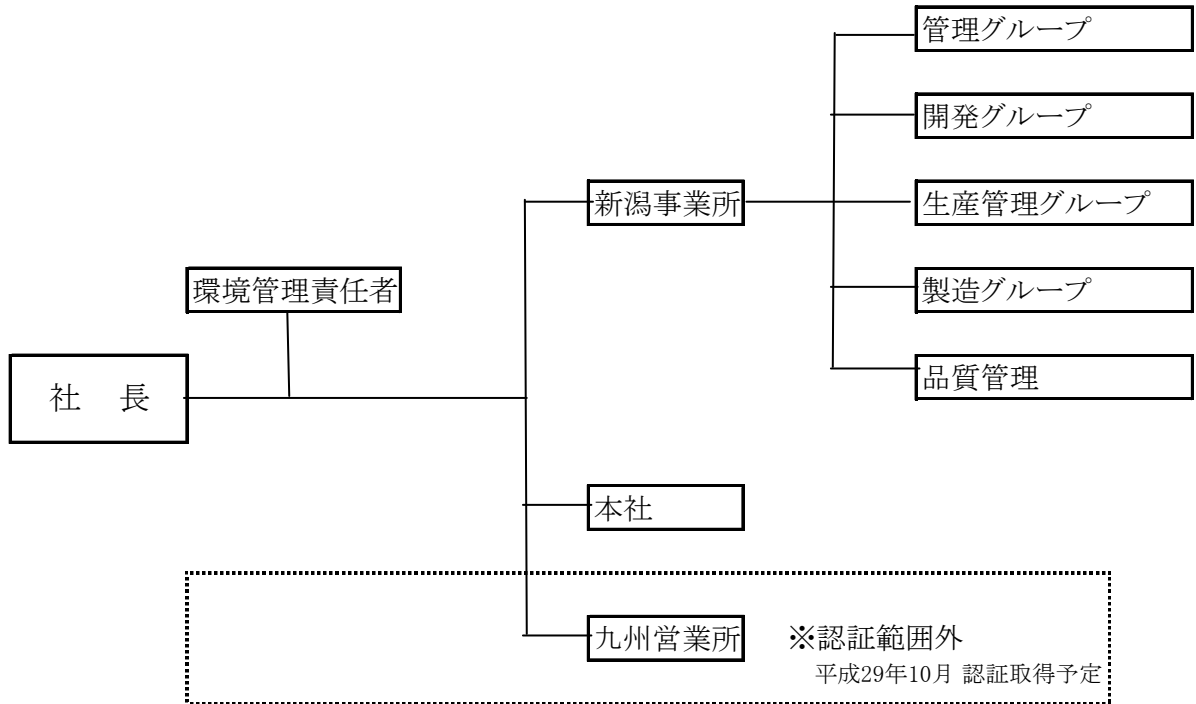
1. 会社概要

1) 名称及び代表者

永田精機株式会社

代表取締役 永田 裕悟

2) エコアクション21 認証範囲



3) 事業所及び所在地

永田精機株式会社 本社

東京都豊島区北大塚2-11-9

永田精機株式会社 新潟事業所

新潟県燕市上諏訪8番2号

※認証範囲外

永田精機株式会社 九州営業所

福岡県福岡市南区西長住3-9-2

4) 環境管理責任者及び環境活動推進責任者

・環境管理責任者	取締役	白倉 武芳
・環境活動推進責任者		
新潟事業所		
製造グループ	マネージャー	山田 一弘
製造グループ(加工担当)	マネージャー	遠藤 治彦
開発グループ	マネージャー	小林 哲
生産管理グループ	マネージャー	小林 幸人
品質管理	マネージャー	大久保善光 (品質技術兼務)
管理グループ	マネージャー	梨子本 勝
本社	顧問	永田 一雄

連絡先

管理グループ 梨子本 勝

電話 0256-98-5131 (代表) FAX 0256-98-5642 (代表)

E-mail : m-nasimoto@nagata-seiki.co.jp

5) 事業の内容

電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器の開発、
製造及び受託加工、商品の販売、不動産の賃貸管理

6) 事業の規模

事業年度	単位	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
製品生産量	t	187.2	115.8	86.4	84.7	58.4
従業員数(新潟事業所)	人	158	114	109	93	91
従業員数(本社)	人	6	4	5	4	4
従業員数(大阪営業所)	人	2	2	2	-	-
従業員数(姫路営業所)	人	1	1	1	-	-
従業員数(九州営業所)	人	-	-	-	1	1
合計	人	167	121	117	98	96
床面積(新潟事業所)	m ²	16,292	16,292	16,292	16,292	16,292
床面積(本社)	m ²	660	660	554	240	240
床面積(大阪営業所)	m ²	35	35	35	-	-
床面積(姫路営業所)	m ²	21	21	21	-	-
床面積(九州営業所)	m ²	-	-	-	27	27
合計	m ²	17,008	17,008	16,902	16,559	16,559

事業年度：4月～3月

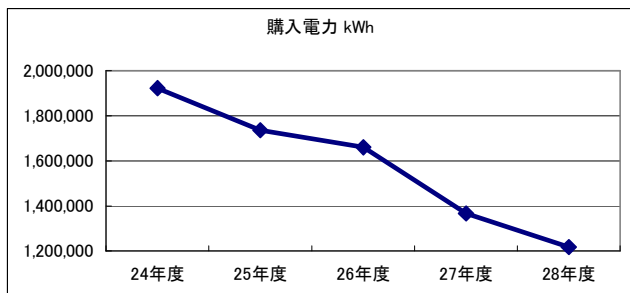
H27年度より本社移転、大阪及び姫路営業所閉鎖、九州営業所開設

2. 環境への負荷チェック

(新潟事業所、本社の合計値で表示した)

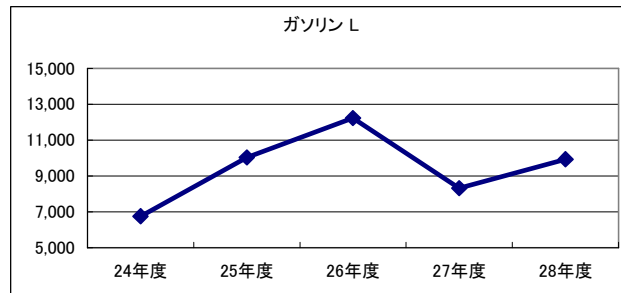
環境負荷実績グラフ

使用量・消費量



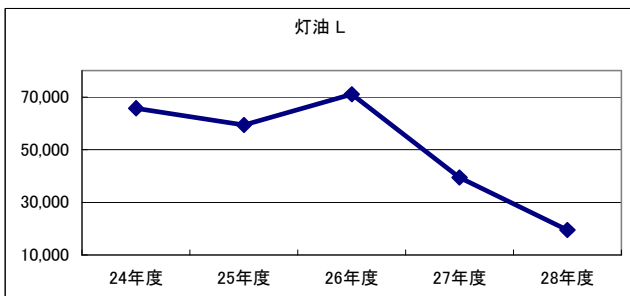
項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
購入電力	kWh	1,922,738	1,735,724	1,660,270	1,366,555	1,217,769

使用量・消費量



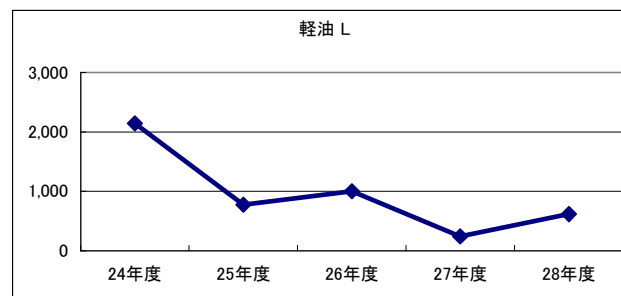
項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
ガソリン	L	6,755	10,040	12,236	8,327	9,941

使用量・消費量



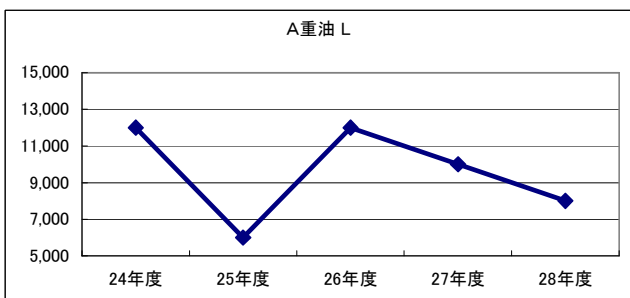
項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
灯油	L	65,755	59,365	70,984	39,393	19,532

使用量・消費量



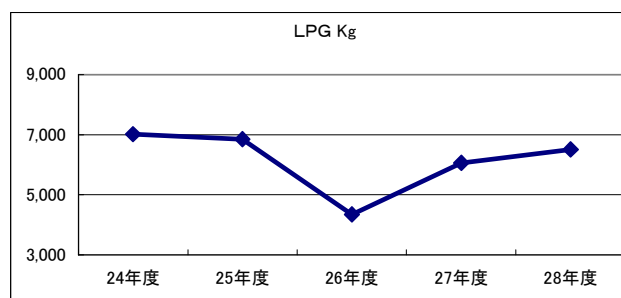
項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
軽油	L	2,142	776	1,003	241	616

使用量・消費量



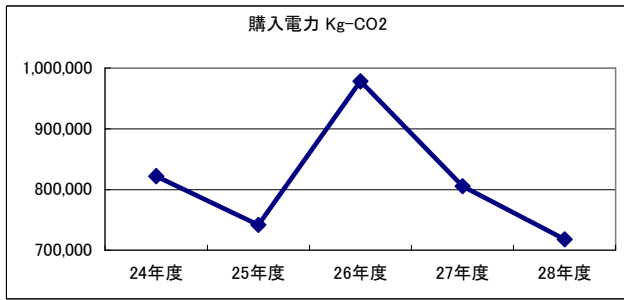
項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
A重油	L	12,000	6,000	12,000	10,000	8,000

使用量・消費量



項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
LPG	Kg	7,019	6,851	4,351	6,059	6,512

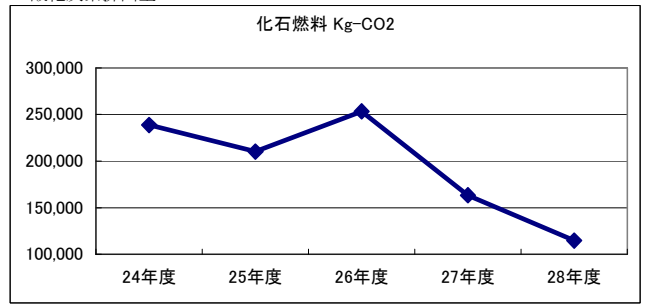
二酸化炭素排出量



項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
電力	kg-CO2	822,118	741,874	978,460	805,535	718,154

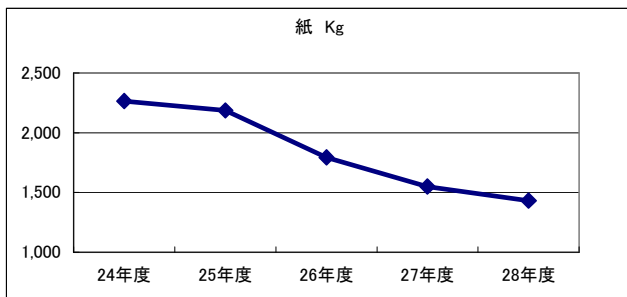
二酸化炭素排出係数	新潟	本社	大阪
(Kg-CO2)	0.429	0.375	0.311
H22年度	東北電力	東京電力	関西電力

二酸化炭素排出量



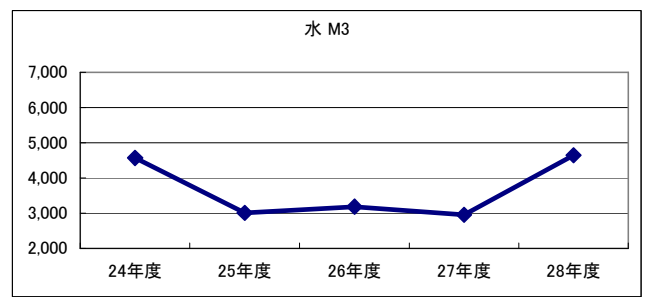
項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
化石燃料	kg-CO2	238,748	210,104	253,504	163,416	114,596

使用量・消費量



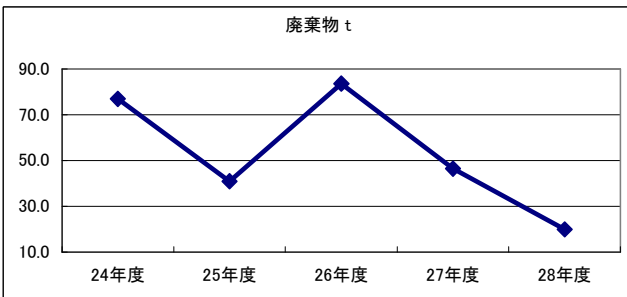
項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
紙	kg	2,265	2,187	1,794	1,550	1,432

使用量・消費量



項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
水	m ³	4,568	3,004	3,183	2,949	4,645

排出量



項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
廃棄物	t	76.9	40.9	83.6	46.4	19.9

3. 環境負荷削減目標

当社は以下の目標を掲げて環境活動に取り組んでいく

長期目標

平成26年度を基準として、平成29年度末までに

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を3%削減する」

短期目標

平成26年度を基準として

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を2%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を2%削減する」

二酸化炭素排出量 (Kg-CO2) の削減目標

製品生産量 (t) 当り 二酸化炭素合計 (kg-CO2)	H26 基準	H27目標	H28目標	H29目標
	14,259	14,116	13,974	13,831
H26を100としての指数	100	99	98	97

●購入電力の排出係数については、H25年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数を使用

紙消費量削減目標

製品生産量 (t) 当り 紙消費量 (Kg)	H26 基準	H27目標	H28目標	H29目標
	20.76	20.55	20.34	20.14
H26を100としての指数	100	99	98	97

水資源消費量削減目標

製品生産量 (t) 当り 水資源消費量 (m ³)	H26 基準	H27目標	H28目標	H29目標
	36.84	36.47	36.10	35.73
H26を100としての指数	100	99	98	97

廃棄物排出量削減目標

製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (Kg)	H26 基準	H27目標	H28目標	H29目標
	543.52	538.09	532.65	527.21
H26を100としての指数	100	99	98	97

その他

環境に配慮した製品を製造する
公害等に関する法令を遵守する

4. 具体的な環境活動計画の内容と取り組み状況

環境目標を達成するために、各項目に対して下記の手順で消費量の削減を図っていく

数値目標を達成するための取り組み（概ね実施＝○、一部実施＝△、未実施＝×）

①電力使用量の削減項目

項 目	取り組み状況
●休日出勤時、残業時、職場内の照明は必要最小限にする	○
●休憩時間は、蛍光灯を消灯する（作業台を含む）	○
●作業者不在となる職場の蛍光灯は消灯する	○
●自然光をできるだけ取り入れ、窓側の蛍光灯を消灯する	○
●作業に支障が無い所の蛍光灯は、常に消灯する	○
●通常使用する照明スイッチにマーキングし、必要な時しか点灯させない	○
●モニター等、OA 機器購入時は、消費電力が低い物を選定する 【管理】	○
●職場内で不要と思われる場所の蛍光灯、換気扇を消す	○
●手洗い場、トイレの蛍光灯は、使用時のみ点灯する	○
●照明器具を年一回掃除する	○
●室内空調の温度設定を、夏は28度、冬は20度とする	○
●帰宅時、最後の人は冷暖房、プリンター、コピー機の消し忘れをチェックする	○
●コピー機は使用したら待機状態にする	○
●5分以上席を離れるときは、パソコンの画面スイッチを切る	○
●プリンターやシュレッダーなどは、使う時のみスイッチを入れる	○
●未使用機械のブレーカーは切る 【製造】	○
●無人運転のNC 機械のディスプレイ画面は消す 【加工】	○
●休出時、またはエアーの必要がない工場の元栓を締める 【製造・加工】	○
●設備機械の漏電、エアー漏れを月一回点検する 【製造・加工】	○
●エアコンのフィルターは、年二回清掃する	○
●製造方法、製造工程に改善を加え、効率的に製造を行う 【製造・加工】	○
●デマンドモニターを監視し、必要に応じて新潟事業所内の空調設備使用の制限を行う 【管理】	○

②化石燃料消費量の削減項目

項 目	取り組み状況
●冷暖房を極力無くし、各自衣類などで調整することを推進する	○
●暖房用ボイラーの設定温度を55度とする 【新潟事業所】	○
●手洗用給湯器の温度設定を40度とする 【品質、管理、製造・加工】	○
●社用車運転時、急加速、急発進、空ぶかしをしない	○
●社用車運転時のアイドリングストップを推進する（駐停車中）	○
●社用車の定期的整備による燃料効率向上、排ガス・騒音レベルの抑制を推進する 【管理、生産管理】	○
●作業終了一時間前にボイラーを停止し、装置内の余熱を有効利用する 【新潟事業所】	○

③紙消費量の削減項目

項 目	取り組み状況
●社内連絡文書はメール化して、紙を使わないようにする	○
●文書で連絡する場合は、回覧、掲示を励行し、配付枚数を減らす	○
●コピーの縮小機能を利用し、紙の消費量を抑える（A4を推奨）	○
●裏紙使用、両面印刷を推進し、紙の消費量を抑えるようにする	○
●連帳全紙で印刷されていた月報は、A4サイズでの印刷に移行する	△
●プロジェクターの利用を推進し、会議用資料の配布を抑える	△
●ミスコピーを防止するため、コピー機の使用後は設定をリセットする	○
●環境に配慮した事務用品を購入する 【管理】	○

④水消費量削減項目

項 目	取り組み状況
●手洗い場に洗面器を設置し、溜め水での手洗いを推進する	○
●水道配管からの漏洩を月一回点検する	○
●バルブの調整により水量及び水圧の調整を行う 【新潟事業所】	○

⑤廃棄物排出量削減項目

項 目	取り組み状況
●シュレッダー使用後のくずを、梱包用クッション材に再利用する 【新潟事業所、本社】	○
●納品に使用されたダンボール箱は、再利用する 【品質、生産管理、製造・加工】	○
●部品払出しに使用されたビニール袋は、再利用する 【生産管理、製造】	○
●トナーカートリッジは回収・再生し、リサイクルに努める	○
●廃棄物の分別回収を徹底し、再資源化に協力する	○
●品質劣化等による不良在庫を減少させるため、在庫数の適正化に努める 【生産管理】	○
●OA機器等の故障時には、修理可能かどうか確認し、可能な限り修理することで長期使用に努める	○

⑥化学物質の適正管理

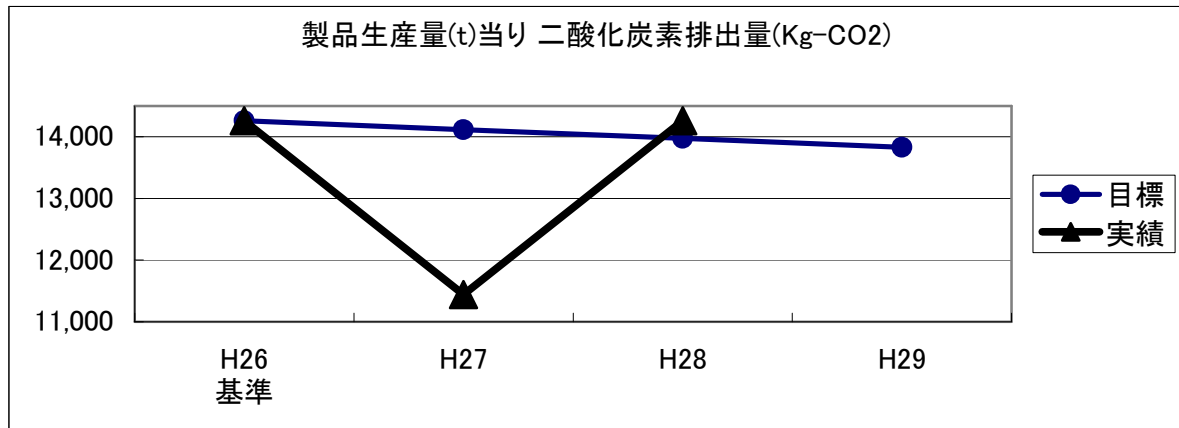
項 目	取り組み状況
●使用する化学物質購入排出量の把握 【新潟事業所】	○

⑦グリーン調達

項 目	取り組み状況
●環境に配慮した事務用品の購入に努める 【管理、本社】	○

5. 環境負荷削減目標と実績の評価

二酸化炭素排出量 「評価=未達」



製品生産量 (t) 当り 二酸化炭素合計 (kg-CO2)		H26 基準	H27	H28	H29
	目標	14,259	14,116	13,974	13,831
実績	14,259	11,440	14,259		
H26(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		80	100	0

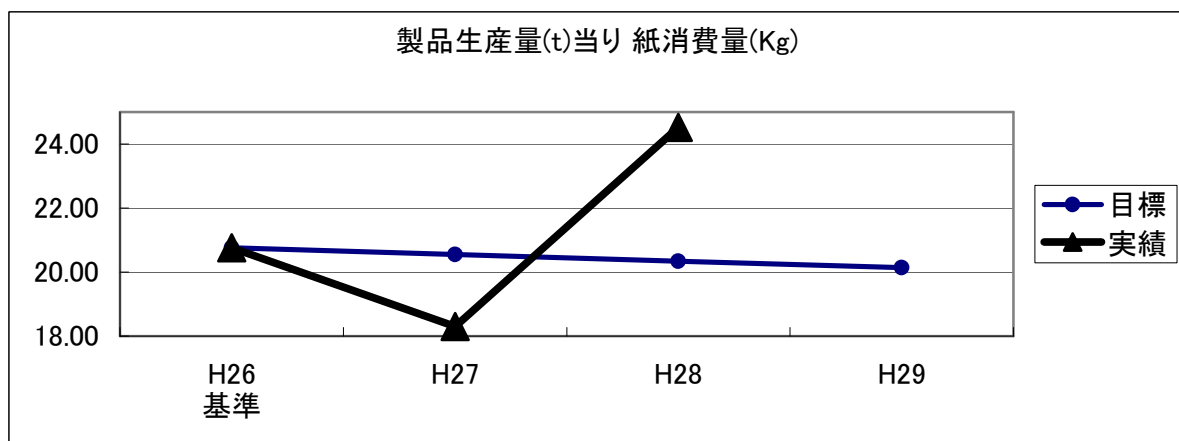
製品生産量当り二酸化炭素排出量は、H26年度比0%となり、目標は未達であった。

一部の冷暖房を休止する為に、夏場は昨年同様に扇風機の使用を推進し、冬場は室内の暖気漏れを抑制する為にビニールカーテンの活用等を行った結果、購入電力投入量(総量)は前年比で10.9%減、化石燃料投入量(総量)についても、同様に29.3%減の良い結果となった。

地道な取り組みは内部監査でも継続されている事を確認している。

又、生産性向上を目指して作業工数低減につながる改善提案が187件あった。以上のことから活動自体は問題なかったが、製品生産量の減少により目標は未達になったといえる。

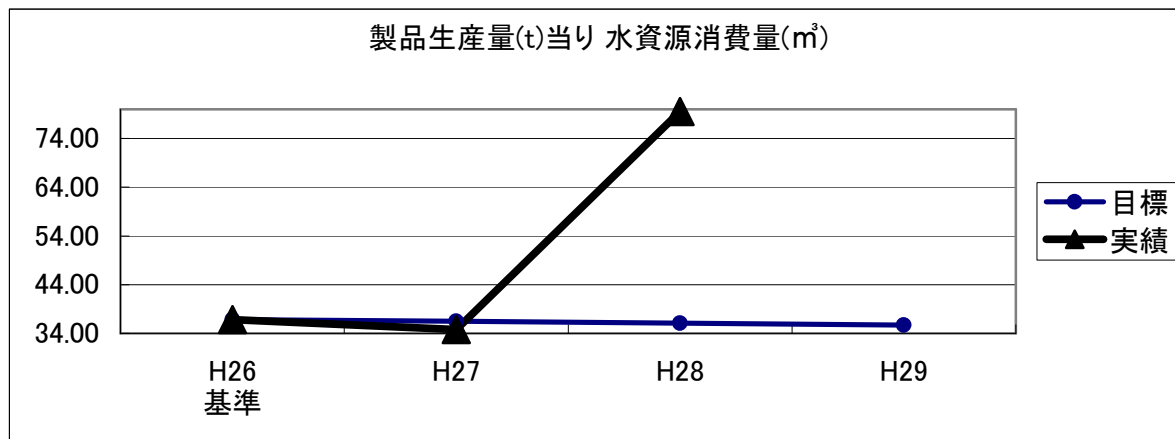
紙消費量 「評価=未達」



製品生産量 (t) 当り 紙消費量 (Kg)		H26 基準	H27	H28	H29
	目標	20.76	20.55	20.34	20.14
実績	20.76	18.30	24.52		
H26(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		88	118	0

製品生産量当り紙資源消費量は、H26年度比18%増となり目標は未達であった。
裏紙使用、両面印刷、電子メールの奨励等、地道に積み重ねてきた活動は継続されている事を確認。
紙資源消費量(総量)は前年比で7.6%減であった。
以上のことから活動自体には問題はなかったと判断している。
従って製品生産量の減少により目標は未達になったといえる。

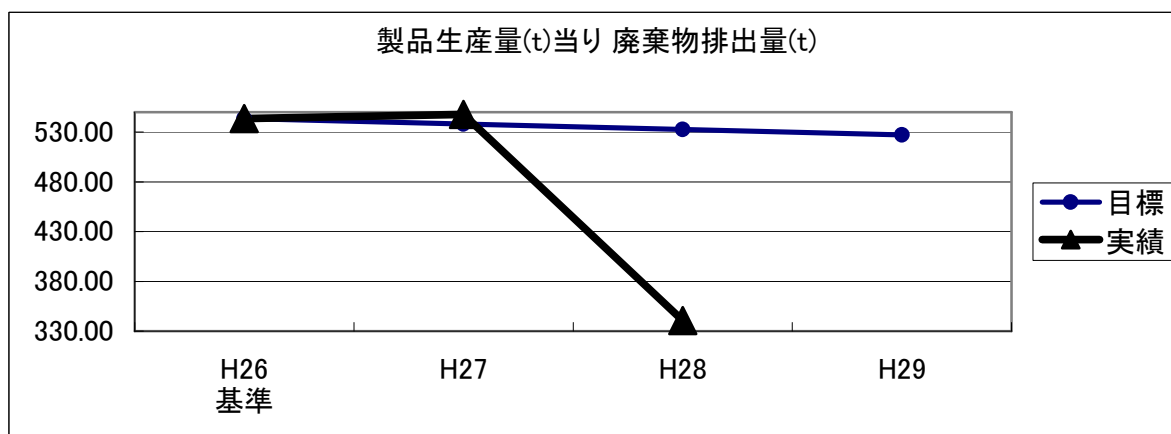
水資源消費量 「評価=未達」



製品生産量 (t) 当り 水資源消費量 (m³)		H26 基準	H27	H28	H29
	目標		36.84	36.47	36.10
実績		36.84	34.82	79.54	
H26(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		95	216	0

製品生産量当り水資源消費量は、H26年度比116%増となり目標は未達であった。
水資源消費量(総量)は前年比で57.5%増であった。
当社では水を使用する生産工程は無く生活用水が主なので想定外の結果となった。
今年度は水道管破裂等2件の漏水が発生したものの、このような数値になるとは考えにくく、製品
生産量の減少により目標は未達になったと推測する。

廃棄物排出量 「評価=達成」



製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (t)		H26 基準	H27	H28	H29
	目標		543.52	538.09	532.65
実績		543.52	547.82	340.75	
H26(基準)を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		101	63	0

製品生産量当たり廃棄物排出量は、H26年度比37%減となり目標は達成した。

廃棄物排出量(総量)は前年比で57.1%減であった。

前年度は事業内容の再編成により多量の廃棄物が発生したが、今年度は繰返し製品の生産量の減少により部品調達数を抑えた結果、顧客仕様変更等の問題による廃棄量が大幅に減少出来た為である。梱包材やビニール袋の再利用や廃棄物の分別回収は継続されている事を確認している。

グリーン購入（事務用品）の推進

事務用品については各々の事業所にて購入していたが、グリーン購入を促進する為に、新潟事業所にて一括購入管理し、各事業所へ送品するよう社内ルールを変更した。

それにより利用シェアが拡大する事を期待している。

H29年3月末時点でグリーン適合品への移行が完了しているのは、32アイテムであり昨年度と同様であった。

今後もコスト面での折り合いが付いた時点で随時、移行していきたい。

6. 次年度の取組み内容

取組み項目に変更は無いが、今年度の結果ならびに次年度の生産計画より現行目標の達成は難しいと判断している。したがって現状に沿った下記目標に変更し、社員の意識向上を促進することにした。

長期目標

平成28年度を基準として平成31年度末までに

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を3%削減する」

短期目標

平成28年度を基準として

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を1%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を1%削減する」

H29～H31までの項目ごとの年度目標値は以下としたい。

二酸化炭素排出量（Kg-CO2）の削減目標

製品生産量（t）当り 二酸化炭素合計（kg-CO2）	H28 基準	H29目標	H30目標	H31目標
	13,532	13,396	13,261	13,126

H28を100としての指数

100 99 98 97

●購入電力の排出係数については、H27年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数を使用

紙消費量削減目標

製品生産量（t）当り 紙消費量（Kg）	H28 基準	H29目標	H30目標	H31目標
		24.52	24.27	24.03
H28を100としての指数	100	99	98	97

水資源消費量削減目標

製品生産量（t）当り 水資源消費量（m ³ ）	H28 基準	H29目標	H30目標	H31目標
		79.54	78.74	77.95
H28を100としての指数	100	99	98	97

廃棄物排出量削減目標

製品生産量（t）当り 廃棄物排出量（Kg）	H28 基準	H29目標	H30目標	H31目標
		340.75	337.34	333.94
H28を100としての指数	100	99	98	97

7. 代表者による全体の評価

目標未達に終わったことは残念であるが、会社全体で環境目標の実現に向けて取り組むなか意識向上や浸透は着実に進み、継続した自発的なエコ活動としてすっかり定着しており、これは日々の生産活動での皆の絶え間ない努力の成果である。

H16年度からスタートしたエコアクション21の活動は13年目を迎え、その間着実に成果を上げながら従業員のエコ意識も大きく改善されている。

- ・製品生産量当たり二酸化炭素排出量 H16より 59.1%減
- ・ 〃 紙消費量 〃 58.2%減
- ・ 〃 水資源消費量 〃 52.6%減
- ・ 〃 廃棄物総排出量 〃 58.3%減

エコ活動において成果を出すには、なにより従業員個々の意識向上と日々の不断の取り組みが大切であり、引き続き会社全体の取り組みとして社内意識の啓蒙と継続的な活動を促進していく。

8. 環境関連教育

教育・訓練年間計画に基づき環境関連教育を実施した。

実施時期	内容	対象者
・H28.5	環境目標と環境活動計画の周知	新潟事業所全員、本社
・H28.7	初期消火訓練	新潟事業所指名者
・H29.3	危険物保管場所の緊急対応訓練の実施	新潟事業所指名者

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

●適用となる主な環境関連法規等

主な適用法規（◎遵守法令、○準用法令）	主な要求事項	評価
◎下水道法	・特定施設の届出 ・事故時の応急処置と届出	○
◎騒音規制法	・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出	○
◎振動規制法	・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出	○
◎悪臭防止法	・指定区域における規制基準の遵守	○
○PRTR法	・当該化学物質の年間排出量、移動量を把握。 ・基準値以上は報告	○
◎高圧ガス保安法	・貯蔵及び取扱い開始の届出	○
◎廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・委託契約の書面締結 ・産業廃棄物管理票の管理 ・産業廃棄物管理票の1年間の交付実績報告	○
◎特定家庭用機器再商品化法	・特定家庭機器の廃棄時にリサイクル料金の支払	○
◎使用済自動車の再資源化等に関する法律	・使用済み自動車の適正処理	○
◎消防法	・防火管理者の選任 ・危険物取扱者の選任 ・危険物貯蔵所の許可 ・危険物保管数量の遵守	○
◎有機溶剤中毒予防規則	・有機溶剤作業主任の選任	○
◎安全衛生法	・安全データシート(SDS)交付義務対象物質の新規採用、 作業方法の変更時にリスクアセスメントの実施	○
◎新潟県・燕市環境基本条例	・特定施設の届出、規制基準の遵守等	○
◎フロン排出抑制法	・全ての第一種特定製品の簡易点検実施(3ヶ月に1回以上) ・一定の第一種特定製品について、専門知識を有する者による点検の実施(3年に一回以上)	○

自己管理をおこない関連法規の違反は無かった。

各方面からの訴訟等は無かった。

地域からの苦情は無かった。